



## 【システムで使用しているモデル・ロジック】

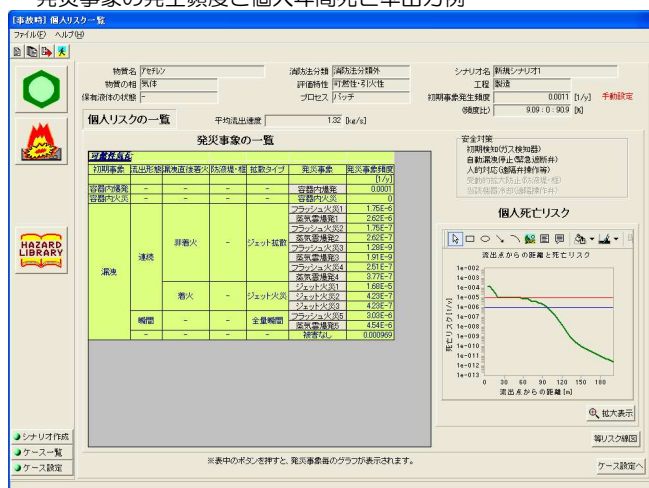
システムで使用している数理モデルやリスク評価ロジックは、全て技術解説書の中で明らかにされており、ユーザは結果の導出過程や根拠が詳細に説明されています。

推定・評価項目	使用モデル・評価ロジック
事故発生頻度	消防法・高圧ガス保安法危険物事故統計 EPA による国内企業調査結果
発災確率	ETA (Event Tree Analysis)
被害影響	TNO-Yellow Book, Green Book プール火災、ファイヤーボール、ジェット火災、大気拡散、蒸気雲爆発、フラッシュ火災、プール蒸発の各影響評価モデル
事故時リスク評価	$\Sigma$ (熱・爆発・毒性被害×発生頻度) ⇒ 個人年間死亡率 ある地点の個人リスク+気象解析⇒ 個人年間死亡率

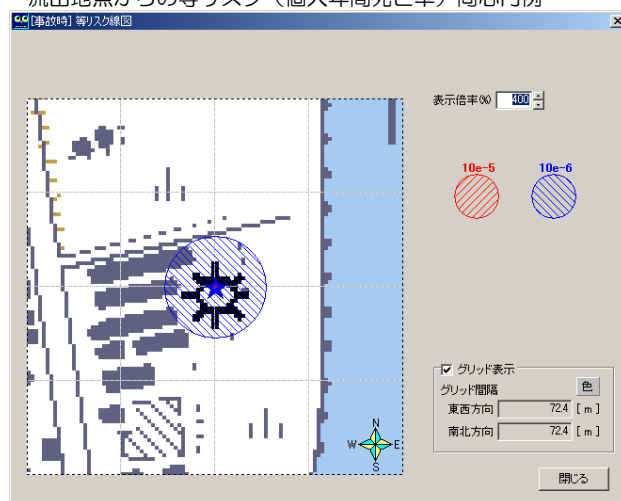
## 【リスク評価結果の出力例】

評価の結果は事故発生源からの距離とリスク指標値（年間個人死亡率）の関係のグラフ、およびその算出根拠となった各事象の発災事象の発生頻度などの計算結果や ETA 情報などが纏めて表示されます。ユーザはこれらの評価結果にコメントを入れながら、総合的にリスク評価結果を判定することになります。

発災事象の発生頻度と個人年間死亡率出力例



流出地点からの等リスク（個人年間死亡率）同心円例



※このパンフレットの作成に当っては、国土地理院の数値地 25000 (地図画像) を使用しています。